

大学院  
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部  
(男女共学)

幼稚部  
(認定こども園・男女共学)



## Contents

特集1 125周年記念ページ … 2～3

特集2 第56回相生祭 … 4～7

特集3 ゆるバース2025 … 8

● 学園各部報告 … 9～10

● コラム … 11

● 同窓会だより／ご寄付のお願い … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学



特集1

# 2025年、相模女子大学は 創立125周年を迎えました



風間理事長

## 125周年、そしてその先へ

1900年(明治33年)10月18日、当時の東京市龍岡町に日本女学校が開学してから、今年で125年が経過し、本学園の歴史は126年目に入りました。この間、私ども法人は125周年をひとつの節目と捉え、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する『開かれた学園』へ」というコンセプトのもと、いくつかの記念事業を企画してきましたが、実のところ、その多くはまだ完了していません。最大の目玉であるキャンパス整備事業、正門東側地域のリニューアルと新棟建設工事については、10月15日に地鎮祭を行い、ようやく本格的な工事が開始されました。完成は来年度末になる予定です。そういう次第ですので、本学園の「125周年」はまだ継続中ということになります。今年の相生祭では「物語を繋げよう」125年分の想いと共に「という統一テーマが掲げられました」という統一テーマが掲げられましたが、まさにこの学園で学び働く皆が、学園の125年の歴史に思いを馳せ、その歴史を未来へ繋げていく決意を示すこと、これこそが125周年の最も大切な「事業」なのだと思います。ともにこの「事業」にチャレンジし、学園の「物語」を紡いでいきましょう。

## 学校法人相模女子大学創立125周年・ 相模原市立大野南公民館創立75周年記念事業 「文化講演会」を開催しました

学校法人相模女子大学創立125周年・相模原市立大野南公民館創立75周年を記念し、風間誠史理事長(名誉教授)による、江戸時代の出版文化に関する文化講演会「江戸の戯作と『学び』」「べらぼう」な世界を支えたものが、創立記念日である10月18日(土)に開催されました。

風間理事長から、今年の大河ドラマ「べらぼう」で注目されている葛屋重三郎が出版した黄表紙『五人切西瓜斬』や洒落本をはじめ、寛政の改革による出版統制を経て新たに展開した合巻・滑稽本・人情本などの実物をお見せしながら、江戸時代の出版の歴史や、江戸の文化を支えた人々の「学び」のあり方について講演がありました。特に、相模女子大学附属図書館が所蔵する合巻『修紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)』は、鮮やかな色彩が今日まで保存されており、参加者の関心を集めました。

当日は約50名の市民が参加し、講演後には風間理事長への質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに終了しました。



## 相模大野ステーションスクエアにて 「相模女子大学の歴史」パネルを 展示しました

相模大野ステーションスクエア6階にて、創立125周年記念「相模女子大学の歴史」パネル展を11月1日(土)から30日(日)まで開催しました。本展は、今年2月に同館を運営する株式会社小田急SCディベロップメント様との連携協定をきっかけに実現したものです。会場では、地域の皆さまが足を止めて展示をご覧になり、パンフレットを手にとる姿も見られ、本学への関心の高さが感じられる催しとなりました。





(仮称)相模女子大学125周年事業キャンパス整備事業新棟建設完成予想図

## 125 周年記念事業 基本コンセプト

# 女性の活躍を支援し、地域とともに 発展する「開かれた学園」へ

## 創立125周年キャンパス整備事業 新棟建設

新棟は「女性の活躍を支援し地域とともに発展する「開かれた学園」」をコンセプトとし、学生たちが地域のみなさんと共に成長し学びが生まれる場として、本学の教育理念を体现する象徴的な施設となることが期待されています。

2025年10月15日、創立125周年記念事業の一環として計画されたキャンパス整備事業新棟建設工事に向け、地鎮祭を執り行いました。式典当日は曇り空に包まれながらも雨に見舞われることなく、落ち着いた雰囲気の中、厳かに神事が進行しました。

今回の地鎮祭には、風間誠史理事長をはじめとする学園関係者、設計・施工関係者が参列し、土地の神様に工事の安全と新棟の繁栄を祈願しました。式典は厳かな雰囲気の中で進められ、風間誠史理事長による鍬入れの儀では、力強く鍬が入れられました。その姿からは、125年の伝統を受け継ぎながら、未来への確かな決意が感じられる場面となりました。

〈地鎮祭〉



〈取り木〉



また、式典では、フランス式庭園に植えられている、しだれ桜と大島桜の「取り木」を行いました。

「取り木」とは、幹や枝から根を出させて苗をつくる方法で、挿し木では発根しにくい、貴重な植物に用いられる技術です。今回は「取り木ボール」という専用の道具を使い、老木となった桜の枝から新たな命を育てる試みを行いました。このしだれ桜と大島桜は、西館と共にフランス式庭園が造られた約80年以上前に植えられたと考えられる、非常に立派な樹木です。しかし、長年の歳月を経て老朽化が進み、倒木の危険性や、今後地域に開放する庭園の安全性を考慮し、やむを得ず伐採することとなりました。

陸軍通信学校時代から、相模女子大学、そして相模原の街を静かに見守ってきた桜。その遺伝子を未来へと受け継ぐため、今回の「取り木」によって新たな苗を育てていきます。



特集 2

第 56 回 相生祭



第 56 回相生祭が 11 月 2 日（日）、3 日（月・祝日）に開催され、晴天に恵まれた 2 日間で延べ 19,671 名の方々にご来場いただきました。

今年度も幼稚部から大学までが一堂に会する開会式に始まり、今年で 2 回目になる学内パレード、小学部によるグラウンドリル、中学部、高等部による演技、模擬店や展示等、さまざまな催しが行われました。

3 日の夜には美しい花火が打ち上げられ、相生祭を締めくくりました。



相生祭実行委員会

委員長 佐伯 菜帆



第 56 回相生祭へお越しいただき誠にありがとうございました。今年の相生祭の統一テーマは「物語を繋げよう」125 年分の想いと共にです。相模女子大学には、125 年という長い歴史があります。その歴史は、一人一人の学生・生徒・児童等が歩んできた日々の積み重ねによって形づくられてきました。そこには喜びも苦しみもあり、世代ごとにたくさんの「物語」が紡がれてきたことと思います。私たちはその想いを受け取り、さらに未来へつなげていく存在です。

私自身、相模女子大学高等部出身で高校生の頃から相生祭が大好きでした。コロナ禍で多くの制限があった中でも、友だちと準備を重ね、当日を迎えた時のワクワク感は今でも忘れられない思い出です。その経験があったからこそ、今こうして実行委員長として相生祭を支えることができ、大変うれしく思っています。

先生・職員・協賛企業・地域・保護者の皆様、加えて通学する皆さんの協力のもと、無事に相生祭を終えることができました。心より感謝申し上げます。

大学祭実行委員会

委員長 木村 佳奈



大学祭実行委員会の委員長として活動してきて、幼稚部から大学までの先生方が出席する会議で報告をしたり、パソコンを使用して名簿を作ったり、学修・生活支援課の方々と連絡を取りあったり、初めての経験を沢山しました。これらの経験を通して、責任感やリーダーシップの大切さを実感するとともに、各局の委員学生や職員などと連携を取り、協力しながら一つの行事をつくり上げることの難しさや楽しさを学びました。自分の意見を伝える力や相手の考えを受け入れる姿勢、そして臨機応変に対応する力も身につけることができました。また、周囲の支えの大切さにも気づき、感謝の気持ちを持って行動することの重要性を知りました。私は将来、保育士を目指しているため、この経験は今後の学びや将来の保育現場でのチーム活動にも活かすことができると感じました。この経験を自信に変え、仲間と協力しながら良い行事をつくっていくよう努力していきたいです。



## 〈大学・短期大学部〉

大学・短期大学部では、各クラブやゼミナール、学科等が模擬店・展示・ステージ発表を行い、日頃の活動成果を披露しました。メインステージでは、吹奏楽部、舞踏研究部、ライトミュージッククラブ、アイドルダンスクラブ、ダンスクラブ「EASTER」、漫画研究部などが華やかな演技を繰り広げ、観客を魅了しました。

また、「ミス・マーガレットコンテスト」では6名の学生が個性あふれる自己PRを披露し、大きな盛り上がりを見せました。さらに、「ゆるバース（旧ゆるキヤラグランプリ）」で全国8位に入賞した「さがっば・ジョー」の表彰式も行われ、温かい拍手に包まれました。

学生たちの主体的な企画・運営により、今年も多くの笑顔と感動に満ちた催しとなりました。



## 地域物産展 地域から日本の『食』を届けよう

地域との交流事業や体験学習、地元の農産物を使った商品開発などを通して、本学の地域連携の輪が日本各地へと広がっています。

相生祭で開催される「地域物産展」は、食を通して地域の活性化をめざすイベントとして17回目の開催を迎えることができました。今年は「西洋菓子海援隊」と「MOTAINAIBATON株式会社」が初出展し、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地より19の地域や企業にご参加いただき、農産物や海産物、スイーツなど、各地域の魅力ある特産品を来場された皆様へお届けすることができました。また、地域との交流事業についてより広く知っていただくために、新潟県佐渡市の郷土芸能「鬼太鼓」を披露したほか、岩手県大船渡市のマスコットキャラクター「おおふなト」が登場し、会場を盛り上げました。





## 〈中学部高等部〉 相生祭報告

来場者数は中学部・高等部で4000名を超え、賑やかに実施されました。

中学部1年…授業やマーガレットタイムで学習したことを展示し、それに関連したワークショップを行いました。

中学部2年…林間学校や授業で学習したことに関する展示とワークショップを行いました。

中学部3年…修学旅行や授業で学習したことに関する展示とワークショップを行いました。

高等部1年…「映画」をテーマにアトラクションなどのイベントを行いました。

高等部2年…「相女万博Food Pavilion」をテーマに、世界各国のユニークなフードを提供しました。

中学部では学習展示だけでなくワークショップも盛況で、参加する児童たちへ丁寧な指導を行う生徒たちの姿が見られました。高等部1年生は映画をテーマとした展示発表、高等部2年生は食品販売が、それぞれ満員御礼となっていました。調理部伝統のアップルパイは3号館近くまで行列がのび、今回の相生祭では、各クラスの実行委員だけでなく有志の運営委員によるとりまとめも多岐に渡り、各所でみられる生徒の主体的な活動が印象的でした。



書道部によるパフォーマンス



箏曲部によるパフォーマンス



中夜祭限定結成の教員バンド



高等部1年 人気の映画をテーマにした展示発表



中学部1年 学習展示も盛況でした



中高科学部によるワークショップの様子

## 〈児童虐待防止〉 オレンジリボン運動

高等部では、児童虐待防止を啓発する「オレンジリボン運動」に3年間継続して取り組んでいます。この活動は、生徒が社会の課題を自ら見つけ、深く調査し、実践を通じて解決を目指す「生徒主体」の学びを象徴しています。

今年の活動は、まず地域の子育ての現状を広く把握することから始まりました。生徒は夏休み中、子育て中の親子にインタビューを実施し、市の支援策の認知度や、ニーズに合った支援は何かといった日常的な子育ての課題について聞き取りを行いました。この実態調査の結果をもとに、相模原市の担当者から専門的な知識を学ぶことで、生徒たちは単にリボンを作って配るという啓発活動に留まらず、児童虐待という問題を、支援制度の課題、地域のニーズ、行政の役割といった様々な角度から深く学ぶことができました。その後、メンバー23名で一つひとつ丁寧に500個を超えるオレンジリボンを手作りし、10月22日に相模原市長に直接手渡ししました。



500 個を超えるオレンジリボンを相模原市長に



## 〈小学部〉 子どもたちの一生懸命取り組み 姿勢に感動

小学部では、2日の午前中に学内パレードとグラ  
ンドドリル、3日には小学部の視聴覚ホールで奇数  
学年が劇の発表に取り組み、偶数学年は翠葉会館を  
お借りし、合唱の発表を行いました。

今年度は、相生祭までの取り組みに大きな変化が  
ありました。それは6年生の鼓笛の取り組みです。  
昨年度までは、約1年間のパート別での朝練習を中  
心にしてパレードとグランドドリルの内容を仕上げ  
ていました。しかし、今年度からは、音楽の授業の  
中で鼓笛の練習を完成させ、より高い演奏を披露で  
きるように努力してきました。この取り組みはより  
子どもたちの演奏への意識を高めることができ、後  
期が始まる10月初めには、学年での演奏のまとまり  
が出てきました。そして、本番が近づくにつれ、全  
校朝会の鼓笛練習や昼の全校練習などを経て、急激  
に鼓笛の音がそろっていったのは驚きでした。そし  
て本番では立派に下学年をリードし、学内パレード  
とグランドドリルで素敵な演奏を届けてくれた6年  
生の姿に感動しました。

新しい取り組みで、本当  
に努力してその力を発揮  
してくれた6年生は、新  
たな伝統をつくってくれ  
たような気がしています。  
また、3日の発表会では  
子どもたちが劇や合唱  
の発表に主体的に取り組  
んでいる姿がよく表れて  
いたと思います。劇では、  
子どもたちは自分の役に  
徹するだけでなく、小道  
具づくりや大道具のセッ  
ティング、劇中のダンス  
をどうするか相談するな  
ど、劇を成功させるため



グランドドリル



学内パレード



1年生劇



4年生合唱

に自分ができることに一生懸命取り組みました。同じ  
ように、合唱の発表もダンスを考えたり、自分たちで  
衣装を工夫したりと、少しでも発表の内容をよりよ  
いものにしようという気持ちにあふれていました。  
劇、合唱ともに、発表を終えた子どもたちには笑  
顔があふれていました。自分から取り組み、自信を  
もって発表する体験の積み重ねが子どもたちの成長  
につながります。今後も、小学部では子どもたちが  
主体的に活躍できる場を大切にしていきたいと思  
います。

(小学部 荒井)

## 〈認定こども園 幼稚園〉 小さくて大きいさくら組

黄色く色付き始めた銀杏の葉が風にそよぐ中、年  
長さくら組の子どもたちが園の代表として開会式に  
出席しました。日頃散歩で慣れ親しんでいる学内の  
様子とは違い、美味しそうな匂いのする模擬店や沢  
山のお客様に目を奪われながらも、大学生のお姉さ  
んが持つプラカードに続いて堂々と入場する姿に誇  
らしい思いがしました。学園の中では一番小さい年齢  
の部ですが、幼稚園の中では一番大きい学年の子ども  
たち。可愛らしくも大きな声で「相生祭の歌」を大  
学グラウンドに響かせ、他部のお兄さん・お姉さんた  
ちと一緒に式典に出席した経験は、総合学園ならで  
はの特別な思い出として心に残ることでしょう。開会  
式を終え保護者の元に帰ると、笑顔溢れるいつもの  
姿に戻っていました。式典という厳かな雰囲気を感じ  
取り、心なしか緊張していたのだと思います。解散  
後は家庭ごとに相生祭を楽しみ、素敵な1日を過ご  
されたことと思います。

(幼稚園 渡辺)



開会式に参加した年長さくら組の子どもたち



開会式を終え、堂々と退場するさくら組の子どもたち



特集3

ゆるバース2025

299キャラ中全国第8位！応援いただきありがとうございました！

ゆるバース2025 決選投票

本学の学園キャラクター「さがつば・ジョー」が、ゆるバース2025（旧・ゆるキャラグランプリ）に参戦し、見事第8位に入賞しました！全国から299のキャラクターがエントリーする中での快挙であり、神奈川県内第1位、学校業界第1位という素晴らしい結果となりました。  
この結果は、皆さまからの温かいご支援と応援の賜物です。心より感謝申し上げます。本場にありがとうございました！今後も「さがつば・ジョー」は、学園と地域・学生をつなぐ「広報大使」として、さらに活動の幅を広げてまいります。

相生祭 さがつばステージ

2025年11月2日・3日の第56回相生祭にて、さがつば・ジョーが「ゆるバース2025」で全国8位に入賞したことを記念し、「表彰式」と「さがつばチャレンジ企画」を実施しました。  
表彰式では、約2か月間にわたる「ゆるバース」開催期間中、投票や声援で応援してくださった皆さまへ、改めて感謝の気持ちを伝えました。  
また、さがつばチャレンジ企画では、輪投げ・テーブルクロス引き・大縄跳びの3種目に挑戦し、会場は大いに盛り上がりました。

テレビCM

本学では多くの方に「相模女子大学」を知っていただくために「さがつば・ジョー」を起用したテレビCMを制作し、9月～11月の間で静岡県と山梨県にて放送されました。学園キャラクター「さがつば・ジョー」が相模女子大学をPRしています。本学YouTubeにて掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



Pickup

投票期間中はゆるナビ HP「ゆるニュース」にて、さがつばの日常生活を投稿していました！閲覧回数が多い人気ニュースにも取り上げられました！



テレビCMはこちらから▼  
[https://www.youtube.com/watch?v=5HC3XW0JY\\_c](https://www.youtube.com/watch?v=5HC3XW0JY_c)



# 学園各部 報告

## 大学院・大学・短期大学部

本学初のスマートミール®認証を取得！  
相模女子大学×イトーヨーカ堂×江戸川区との  
産学官連携による「頑張るあなたを！応援弁当」

本学が2024年に江戸川区及び株式会社イトーヨーカ堂との産学官連携事業として行った食環境整備事業「E・i・S（イース）健康弁当プロジェクト」において開発した「頑張るあなたを！応援弁当」が、一般社団法人健康な食事・食環境コンソーシアムが定めるスマートミール®の認証を取得しました。本学の連携事業の取り組みの中で、初めて！のこととなります。

江戸川区は、生活習慣病（糖尿病や高血圧等）の有病率が東京都の平均値よりも高く、そのリスク要因である食塩摂取量も高い一方で、野菜の摂取量が少ない等の食生活上の課題があります。また、中食（弁当や総菜などの調理済食品）の利用も多いという特徴もあります。そこで、その特徴を生かしつつ課題解決をするための食育・食環境整備として、「頑張るあなたを！応援弁当」を開発しました。このお弁当は、江戸川区食育推進連絡会のアドバイザーである管理栄養学科吉岡有紀子教授が中心となり、本学管理栄養学科の学生が考案したレシピを基に、江戸川区とイトーヨーカ堂の管理栄養士と連

携し、試作・評価会を学生も共に繰り返し仕上げていきました。

江戸川区の姉妹都市であるハワイ州ホノルル発祥の料理「ロコモコ」を主菜とし、ロコモコにかかる「小松菜ソース」は緑が鮮やか。小松菜が江戸川区の特産品であることに着目した本学学生考案の中でも特に評価が高かったオリジナルレシピです。1食約600kcalと成人女性にとって適量であり、野菜が何と160g以上入っています。そのボリューム感の中で、食塩相当量は3g未満を実現しながらしっかりと味わいに仕上がりました。量も質も味も彩りもよく、様々なバランスが整ったお弁当ができあがりしました。多くの種類が並ぶ店舗のお弁当売り場において、思わず「おいしそう」と手に取り、楽しく食べていただくことで、無理なく自然に自分の後の生活の中で望ましい食行動変容につながる、という食環境整備を目的に開発したものです。



開発したお弁当と、学生が作成したチラシを店舗で配布している様子



多くの親子で大盛況



子ども達と一緒にペーパークラフト作り

小田急電鉄相模大野エリア×相模女子大学  
×三菱重工相模原ダイナボアーズ  
「コラボフェス2025」に参加しました

9月13日（土曜日）相模大野駅アトリウム広場で開催された子ども向けイベント「小田急電鉄相模大野エリア×相模女子大学×三菱重工相模原ダイナボアーズ「コラボフェス2025」」に、本学子ども教育学科の学生が参加しました。当日は、相模女子大学ダンスクラブ「E.A.S.T.E.R」の学生や、相模女子大学高等部の生徒もイベントに参加し、地域の子どもたちと一緒にペーパークラフト作りや小田急電鉄株式会社の子育て応援マスコットキャラクター「もころん」のテーマソングに合わせたダンスを披露するなど、会場を楽しく盛り上げ大盛況となりました。

複数大学合同面接練習会を行いました

10月11日（土）、拓殖大学にて、大学3年生を対象とした複数大学合同面接練習会が行われました。この練習会は毎年行われており、拓殖大学をはじめ、亜細亜大学、神奈川大学、川村学園女子大学、関東学院大学、共立女子大学、國學院大学、国士館大学、実践女子大学、白百合女子大学、中央学院大学、帝京大学、東洋英和女学院大学と本学の14大学から約70名の学生が参加しました。

練習会では、様々な業種の企業の方々に協力をいただき、本番さながらの集団面接・グループディスカッションを経験することができました。企業の方より、良い点・改善点のフィードバックが行われ、他校の学生からも刺激を受ける大変貴重な機会となりました。

面接練習終了後には、各企業からの講評や質疑応答が行われ、座談会では、企業の採用担当者の説明を聞くことができました。

参加した学生は「他大学の学生の就職活動の状況が分かって、刺激になった」「グループディスカッションの練習ができて良かった」と自信に繋がったようでした。就職支援課では、学生に合わせた就職活動のサポートを引き続き行っています。



合同面接練習会の様子



グループディスカッションの様子



中学部・高等部

「高2グローバルコース  
イングリッシュキャンプ」

グローバルコースの2年生は、6月中旬に福島県白河市にあるブリティッシュヒルズを2泊3日で訪れました。イギリスのハイランド地方に似ているという冷涼な気候の中、英語と英国文化に「浸る」環境で、日ごろの学習の成果を実践し、学びを深めることができました。

メイン棟であるマナーハウスには、図書室や貴族が過ごす部屋などが再現されており、講師からクイズに答えながら、英語で英国文化について学びました。まるでハリポタの映画に出てきそうな食堂であるリフレクトリーでは、2日目の夜にテーブルマナーを学び、イギリス式のテーブルマナーを実践しました。最終日は、スコーン作りを行いました。

英語で指示される計量や手順で生地を作り、オープンからいい香りが漂う中で英語での会話も弾みました。



「パスポートのいない英国」での研修

英語で話すことに果敢にチャレンジするだけでなく、普段の学校生活では見ることができないクラスの友人の一面を発見することができ、クラスメイトとの絆を強まった有意義な3日間になりました。

「相模原市戦没者合同慰霊祭」

10月11日（土）相模原市民会館にて行われた「戦後80年相模原市戦没者合

同慰霊祭」に高等部生徒24名が学生ボランティアとして参加しました。

高校3年生の浅川さん、阿藤さんが平和の誓いを述べ、「戦争を知らない世代として、戦争のことを学んだり、平和を大切にしよう」と意識を変えることによつて、これからの戦争がない、皆が平和的に共存できる未来を創っていくこと」を誓いました。

生徒たちは、ボランティア活動として受付や会場内の誘導、献花の手渡しなどを行いました。また、A I 語り部体験では、長崎で被爆したA I 語り部の経験を視聴し、代表生徒が質問をしました。



献花も本校生徒が担当

高等部教員研修

6月と11月の2回にわたり、相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科講師の赤塚祐哉先生に講師をしていただき、「授業における「問い」づくり」「思考を深める授業」知の最大化と問い生成」というテーマで教員研修を実施しました。授業力向上のために、生徒の主體的な学びを引き出すための「問い」についてワークシ

ョップで教科を超えて実践的に学ぶことができました。



ワークショップを主体とした教員研修

小学部

「よりよいチームを目指して」有志の縦割りチームで取り組むプログラミング

小学部では、プログラミング教育の一環として、放課後、高学年の有志による2つの活動をしています。

1つ目は「宇宙エレベーターロボット競技会」です。これは、事前に作成したレゴロボットで、地上から宇宙ステーションへピンポン玉をいくつ輸送できるかを競い合うものです。10月5日の関東大会では、小学生部門第1位、第2位、また、女子児童のみのガールズチーム部門第一位に入賞しました。

2つ目は、「Girls Go STEAM」です。これは、FIRST Japanが企画する科学、技術、工学、アート、数学（STEAM）分野で女子児童が自信とスキルを身につけ、新たな未来を切り開くことを目指す特別プログラムです。12月の東京大会に向け、今シーズンのテーマである「考古学」に関するプレゼンテーションとロボット競技の練習に励んでいます。近日、東京都埋蔵文化財センターへ訪問し、学芸員の方へ現代の考古学の課題についてインタビューする予定です。

どちらの活動もスキルの習得に終始するのではなく、たくさん話し合い、よりよいチームになることを大切に組み込んでいきます。

（小学部  
プログラミング専科  
高橋 千翔良）



宇宙エレベーターロボット競技会  
関東大会の様子



Girls GO STEAM の活動

認定こども園 幼稚園部

「ふれあい」

長い夏と短い秋が過ぎ、子どもたちは戸外でたくさん身体を動かしています。両手に虫網と虫かごを持って、虫はどこにいるのかと木や落ち葉、土の中など、これまでの虫捕りの経験を活かして至る所を探しています。その姿はまるでハンターのようで、見つけた時の表情はキラキラと輝いています。虫かごに入った昆虫と図鑑をにらめっこしながら昆虫の種類を調べています。

梅雨の時期から育てていた植物も夏の猛暑を乗り越えて花が咲き始めました。これまで「栄養がとられちゃうからね」と雑草を抜いたり、夏の時期も陽が沈んだ後に植物に水をあげたりとコツコツお世話しながら、だんだんと変わっていく植物の様子に次はどのような変化があるのか期待を膨らませていました。観察した後は花を使って色水遊びもしました。今は種取りに夢中です。

子どもたちは種から育てた植物にまた多くの種が実ることを知り、命の繋がりを経験しました。

（幼稚園部 石井）



「ちょう捕まえた!」



「どこに種があるの?」



125<sup>th</sup> Anniversary  
since 1900

## 25年前の創立100周年記念事業

本学は2025年10月に創立125周年を迎えました。今回のコラムでは25年前の創立100周年記念事業について振り返ります。

2000(平成12)年10月18日(水)創立記念日、グリーンホール相模大野(現在の相模女子大学グリーンホール)にて開催された記念式典では千数百名の参加者が集まり、同窓生は北海道から沖縄県、そして韓国からも駆け付けました。当時の竹村照雄理事長の式辞、中村以正学長の挨拶に続き、大島理森文部大臣(代読)、國岡昭夫日本私立学校振興・共催事業団理事長、小川勇夫相模原市長ら6名の来賓による祝辞が述べられました。司会は、「やまがたゆうがた600」のメインキャスターとして活躍されたNHK山形放送局アナウンサー石井樹里(旧姓中田、本学学芸学部国文学科卒業)さんが務めました。続いて行われた祝賀コンサートでは、和太鼓による演奏、学生・生徒・児童・園児らによる合唱が披露されました。

小田急ホテルセンチュリー相模大野に会場を移して開催された記念祝賀会では、カナダのマニトバ州立大学Percival学部長らによる祝辞が述べられ、大勢の参加者が創立100周年を祝いました。

午後にグリーンホール相模大野で開催された記念音楽会では、ソプラノ歌手佐藤しのぶソプラノリサイタルが行われ、一般市民を含めた満員の観客を魅了しました。

また、2001(平成13)年11月には、100周年記念館マーガレットホール(現在の夢をかなえるセンター)が竣工。この建物は、鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC造)4階建て、1階に就職課及び入試広報課、2階には吹き抜けのカフェテリア(学生食堂)、3階には保健室(現在の保健センター)や学生自治会室等、4階にはガーデンホールが配置され、渡り廊下でつながれた喫茶棟には、ティーラウンジやミーティングルームが設置されました。

2001年12月には竣工式と竣工祝賀会が催され、北海道・富山県・兵庫県・岡山県・愛媛県などから同窓生が参加しました。建設から25年を経過した現在でも、夢をかなえるセンターの活動拠点として、学内外から幅広く利用されています。

また、創立100周年記念事業では学園のシンボルマークとロゴが制定されました。シンボルマークとロゴは学内で公募し、23点の作品の応募がありました。シンボルマークには八木英恵(当時、高等部2年生)さんの作品が選ばれ、「鳥」「少女」「風」をモチーフとして、「新しい時代に向けて力強く、そして爽やかにはばたく女性像」が表現されています。一方、ロゴは入選作品がなかったため、デザイナーによる制作となり、2010年の創立110周年に新しいシンボルマークとロゴが制定されるまで使用されました。



創立 100 周年記念式典



創立 100 周年記念品の懐中時計



創立 100 周年記念祝賀会



100 周年記念館マーガレットホール  
(現在の夢をかなえるセンター)

**SAGAMI**  
WOMEN'S UNIVERSITY  
相模女子大学

学園のロゴ(当時)



学園のシンボルマーク(当時)

参考資料:『校舎は焼けても、学校は焼けない - 相模女子大学の110年』、『学園ニュース 増刊号』(平成12年4月5日発行)、  
『学園ニュース No.82』、『学園ニュース 増刊号』(平成12年11月24日発行)、『学園ニュース No.83』、『学園ニュース No.89』





## 第39回関東女流書展 「席上揮毫」

田中 琳涼（昭和 61 年学芸学部国文学科卒）

毎日書道会会員 あきつ会常任理事 同窓会文化教室書道講師

「出そこなふた顔してひとつ蛙かな」  
千代女の俳句



令和 7 年 9 月、上野の東京都美術館で開催される関東女流書展に出品させていただきました。また、出品者の中から、かな書道の作家として席上揮毫のご指名を受けました。「席上揮毫」(せきじょうきごう)とは、大勢の観客の前で作品を書いて披露することをいいます。

「かな書道」との出会いは学芸学部国文学科在学中でした。当時、非常勤講師で、かな書道を専門に教えていらした手島朱琳先生の書に魅せられ、授業のみならず稽古場に押しかけて門下生となり学ばせていただきました。先生は既に故人となられており、今回、譲り受けた遺品の硯と墨を会場に持ち込み揮毫することにいたしました。

さて、私は一番手の揮毫者です。紙の大きさは縦 6 尺横 2 尺(約 180 cm×60 cm)で、水色のぼかし模様の画仙紙を用意しました。紙の美しさは、かな書道特有のもので、素敵な紙を使いたいと思いました。

司会の方の紹介を受け、墨を数回擦って心を落ち着かせから書き始めました。

来場者は 200 人ほどでしたが、会場は静まり、私の毛氈(もうせん)の目の前に座っていらっしゃる方々の視線が突き刺さる感覚を覚えました。しかしながら、自分でも驚く程落ち着いていて、手が震えることなく落款印を押し、仕上げることができました。

恩師の硯はとても大きく重く、上野までの道のりは大変でしたが、私の「守り神」のような存在となり、「居てくれてありがとう。」と硯に感謝いたしました。

その後、東京都美術館ではゴッホ展が開催されました。世界的名画が展示されるこの場所で揮毫させていただいたことは、この上ない幸せであり、生涯の宝物となりました。書の世界に導いて下さった恩師、お世話になった諸先輩方に感謝申し上げます。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」及び「創立 125 周年記念事業募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

創立 125 周年記念事業募金委員会委員長 速水 俊裕 マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

### 創立125周年記念事業募金

#### 募金内容

本学園は、2025 年 10 月に創立 125 周年を迎えました。相模女子大学創立 125 周年記念事業は、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する『開かれた学園』へ」というコンセプトを掲げ、「学園キャンパス整備事業」「周年誌編集事業」の二事業を実施する計画を進めております。皆様からいただきましたご支援は、この三事業による地域の活性化と本学園の更なる発展に有効に活用させていただきます。

### マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成 20 年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」「さがっば・ジョーの活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただきます。

#### ① お振込（郵便局または銀行窓口） ② 郵送（現金書留）またはご持参

詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。

#### ③ インターネットから申込の場合

#### お申込方法 (個人の場合)

クレジットカード決済となります。ホームページ上の入力フォームに必要事項を入力の上、ご送信ください。



マーガレット募金  
インターネット  
申込入力フォーム



創立 125 周年記念事業募金  
インターネット  
申込入力フォーム

●お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp

125<sup>th</sup> Anniversary  
since 1900

相模女子大学は創立125周年を迎えました。

学校法人 相模女子大学